

2022年2月 (No.392)

主な内容とページ

高原状態を持続する半導体需要	1
3期連続で最高更新した21年第4四半期世界出荷	2
第4四半期半導体輸出、2期連続1兆円台回復	2
最高記録ラッシュの2021年結果	3
日本の半導体輸入が6年ぶりに過去最高を更新	4
品不足は続行？ 22年見通し	4
日本アジア欧州半導体企業、第4四半期 ほぼ増収、6割増益	5
半導体は主役ではない(SRL だより)	11

高原状態を持続する半導体需要

半導体の需要は、年末から年初にかけて通常は季節的に弱い時期だが今年の高水準を持続している。

1. 昨年の半導体は、市場規模、企業業績等過去最高の記録ラッシュが相次いだ。今年に入っても、その勢いは続行している。
2. わが国半導体では昨年、半導体輸入額が初の3兆円台に乗せ、6年ぶりに過去最高を更新した。
3. 活況下の半導体だが、新たな成長の波に乗れるか否か。今年の展望は大きく異なり、伸びている企業がより飛躍を遂げそうな雰囲気だ。

半導体は主役ではない

半導体をめぐる話題が豊富。わが国は一時の世界トップから今や産業存亡の機にある激変ぶりが注目される原因の一つではないかと思う。しかし、半導体そのものは別に店舗で売っているわけではなく、一般的には、この世界は、ほとんど理解されてはいない。パソコンやスマホは、身近としても、半導体は、別だ。

ここでの問題は、半導体の価値あるいは効果をいかに示すか。政府は補助金を投入して外資の誘致を決めたが、マスコミや専門家は、その是非、内容等細かい話題で終始。簡単にいえば、これによって将来どの程度わが国の GDP を伸ばすか、それが最大の課題だろう。

半導体業界の人々も自分たちの仕事が、どれほどの経済社会的効果を持つのか、残念ながらほとんど聞かれない。半導体がいくら技術資本集約でも一人歩きは出来ない。その最終成果が問われているのだ。微細な世界を追求してはいるが、大きな展望を抱き、そして描く。この視点がなければ、日本の半導体の再興はありえない。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2022 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2022 年 2 月 (毎月 1 回発行) 第 33 巻 2 号 (通巻 392 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒188-0014 東京都 西東京市 芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

February 2022, No.392

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014 Japan

Mail: info@semiconresearch.co.jp

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2022

購読料金 1 年分 (12 号) 98,000 円 (税別) 107,800 円 (税込み)